

グループホームフィオーレ弥生
小規模多機能型居宅介護フィオーレ弥生
アシストリビングホームフィオーレ弥生
運営推進会議議事録

日付：令和7年8月19日（火）

時間：13：30～14:00

場所：アシストリビングホームフィオーレ弥生

司会：増山 文人（小規模多機能型居宅介護やよい 管理者）

参加者 室田氏（釧路短期大学、生活科学科准教授）

木ノ下氏（弥生中央町内会会長）

西本氏（小規模多機能居宅介護 利用者）

1. 事業運営報告

小規模多機能型居宅介護フィオーレ弥生

■7月8月の介護別サービス利用状況

	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
7月	1名	3名	7名	7名	5名	2名	25名
8月	1名	3名	8名	4名	5名	4名	25名

利用状況

- ・男性 9名 女性 16名 計 25名
- ・車椅子 9名
- ・最高年齢 男性 94歳 女性 99歳 平均年齢 86歳
- ・平均介護度 3.0
- ・空き状況 通い・訪問 4名 待機者 2名

入退去内訳

【退去】

- ・6/24 長期入院の為、退去

【入居】

- ・7/10 老健より新規入居

2. サービス内容・行事等

小規模多機能型居宅介護フィオーレ弥生

7月

- 7/7 七夕短冊作り
- 7/16 いももち作り
- 7/23 ペットボトルボウリング

8月

- 8/11 うちわで涼しい風船バレー
- 8/19 俳句作り
- 8/26 お好み焼き作り

3. 7月8月の事故報告

小規模多機能型居宅介護フィオーレ弥生

7月

- インシデント 4件 転倒1件、額をぶつける1件、ずり落ち1件、皮膚変色1件
- ヒヤリハット 1件 窓を開ける

8月

- アクシデント 1件 異食1件
- インシデント 3件 出血1件、転倒1件、転落1件

4. その他

小規模多機能型居宅介護フィオーレ弥生

職員の採用

なし

職員の異動

なし

職員退職

8/20 退職

介護福祉士 7名

介護初任者研修 2名

事例検討

事例 A

75歳女性 アルツハイマー型認知症

小規模ショート利用開始し2週間が経過されたが居室リビングと行き来されることが続いている。声掛けに笑顔は見られ「暇で、することがない」と話される。また、他の通いの利用者様が帰宅する際に「私は帰れないの」「私なんでここにいるの」と話される、短期記憶の欠如が著しく都度職員を捕まえては何でここにいるのか説明してほしいと話される、また、携帯電話から馴染みの友達に頻繁に連絡し、迎えに来てほしいと訴えが続いている。

目標；①役割を持ち、暇だと思いう時間を満足出来る

時間に変える

②不安感からここにはいられないという思いがみられる
安心して生活が出来るように、ここに来た経緯、金銭面
現在の状況を聞かれた職員が統一した回答が出来るよう
になる。

①役割「モップかけ」楽しみ「カラオケ」を日課として、本人の了承を得る
モップかけは朝食後、カラオケは13時から時間を決め実施していく事とする。
②ここに来た経緯、札幌在住の息子様と一緒に来られ、息子様が札幌で一緒に生活する準備の為、小規模弥生のショートを利用している。金銭面は息子様が引き落としの設定をしているので、未払いになったことはない。
以上の経緯を職員全員にLINEworksにて周知、全職員が同様の回答が出来るようにした。

取り組み結果

①10日間上記、目標にてモップかけ・カラオケを声掛け、関りにて実施した朝のモップかけは、好まれ自分の役割として定着し「もっと掃除するところないのかい」と積極的に取り組まれていた、昼・夕食後の手摺の消毒もSから本人に役割としてやってほしいとの話あり、追加で実施する。現在も本人負担になることなく、役割として定着し、帰宅願望は聞かれるも以前ほどの頻度ではなくなった。楽しみとしてのカラオケは、カラオケを歌うことを楽しまれるより、他の方が歌っているのを聞いたり、集団でレクリエーションをすることを楽しまれている様子あり、個別での関りから他利用者様を交え集団で馴染みの関係を構築していくこととした。

②職員全員が同様に声掛けを実施したが、口調や抑揚によるものか、納得されない場合が多い職員と、すぐに納得される職員とに分かれる。
普段から関わりが多い、職員特に一緒にレクリエーション、掃除などを行っている職員が声をかけると落ち着かれることが多い。
言い方も上から説得するような言い方には反発がみられていた。

課題

- ①役割が終わってしまうと、すぐに暇を持てあますことがあり、今後は継続して本人が集中して行える役割を複数設定、本人の様子をみて役割の提供を実施する必要がある。
- ②全職員が普段から関わりを持ち、認知症で何も分からない人という認識ではなく、一つ一つ相手に理解をして頂けるような声掛けを心掛ける。
近時記憶はないが、職員の名前や顔は把握されている、安心して頂ける職員であることを職員全員が心掛ける。

質疑応答

職員皆で細かく取り組み、利用者様の対応を考えられているのがとても良いことだと感じました。忙しい業務の中での取り組み大変かと思いますが、今後もどうか続けて頂きたいと思います。

息子様が実際に札幌に連れていく事は今も継続されているのですか

⇒馴染みの場所が釧路であり、札幌へ行ったとしても施設入居となるので、家族が遠方にいても、施設入居が続けられるのであれば、釧路に居てほしいという要望になっています。

役割を持って生活する事は年をとるととても大事なことに感じます、何もすることがないと寂しさがやはり募ります、自信をもって生活していけるように取り組んであげてほしいです。楽しみもカラオケ等本人の意欲を出来る限り引き出してあげてほしいです。

次回 令和7年10月21日 14:00
アシストリビングホームフィオーレ弥生
2階リビング